

## 2024年度岡本ゼミによる海外フィールドワーク（FW）

### の成果報告

政策学部岡本由美子ゼミは2011年度以降、ゼミ活動の中心に海外フィールドワーク（FW）を据えて来ました。今年度は、なんと5年ぶりに、現地で海外FWを実施できました。新型コロナウイルスや円安の影響でしばらく、オンライン海外FWを余儀なくされてきましたが、本年度、現地での海外FWを復活できましたこと、本当に良かったと思っております。2024年度11月2日（土）の午後3時から午後5時半まで、同志社大学今出川キャンパス良心館401号室で開催致しましたので、以下、その概要をまとめます。

冒頭、岡本より、ゼミのテーマ、特徴、及び、今年度のゼミ活動の概要を説明した後、まずは、3、4年生のウガンダに関連する4つの班（NUFLIP班、コーヒー班、エコツーリズム班、テラ・ルネッサンス班）からそれぞれ、15分ずつ、発表を行いました（海外FW当日のスケジュールに関しては、文書の最後の補足欄をご覧ください）。

最初の報告は3年ゼミ生のNUFLIP班からでした。対ウガンダ政府に日本政府から供与されているODAの中でも、非常に高い評価を受けている北部ウガンダ生計向上支援プロジェクト（NUFLIP）を実施する開発コンサルタント会社の株式会社JIN様から多大なる協力を得まして、毎年、北部ウガンダの拠点であるグルで海外FWを実施しております。

本年度は3つの農家グループを訪問し、視察、及び、農家グループへのインタビュー調査を実施しました。3つの農家グループは、NUFLIPフェーズIのみ参加し、それからは自立的に運営できている農家グループから1つ、NUFLIPフェーズIIから参加している農家グループから1つ、そして、NUFLIPフェーズI、II、ともに参加している農家グループから一つピックアップして、訪問致しました。調査・活動内容は2つから成り立っています。調査内容は、NUFLIPへの参加前後でどのような変化が生じたのか、つまり、インパクト評価を行うものでした。どのグループからも、非常にポジティブな意見が出され、我々一同、驚いたものです。また、実際に、第3農家グループでは、トマト栽培の現場を訪問させていただきましたが、農家さんが自ら、ほぼ日本の農家さんと同様な手法で、しっかりとトマト栽培ができるようになったことを確認できました。一同、とても感動しました。

活動内容としましては、乾燥野菜や乾燥果実の導入の可能性を探るものでした。日本でもとりわけ需要が高く、しかし、もっとも生産が難しいとされている乾燥マンゴの実現を学生から提案したところ、第2農家グループからそれへの取組みの表明が出て、皆、非常に感動しました。帰国後は学生が英語で作成方法を説明し、その実証実験が今後、現地でなされる予定です。小さなことですが、これまでのゼミ活動の積み重ねが現地の人々の行動に何らかの影響を与え、実現でき、こんなに嬉しいことはありません。

次は、3年ゼミ生のコーヒー班からの発表でした。昨年の3年生のコーヒー班が生み出した成果から、ウガンダ東部の我々のカウンターパートである、ブフンボ有機農家組合（BOFA）の女性コーヒー農家さんが抱える問題の深堀りと、その対処策としてのハンディクラフト生産の提案を行いました。正直、今回のFWの最大の成果の一つは、組合が独自の取組みとして始めた女性コーヒー農家さんの更なるエンパワメント政策が功を奏し、女性の組合内での組織化が進み、発言権が増し、それと同時に、ハンディクラフトの生産・販売が上手く回り始めた事を確認できたことでした。アンケート調査結果から、女性のエンパワメントは女性の幸福度の向上をもたらしたことも確認でき、組合独自の女性エンパワメント政策の社会的インパクトが極めて大きい事を確認できたことは非常に大きな成果だと思います。

しかしながら、本組合には高齢化問題が発生しており、つまり、若者の人口に占める割合が日本と異なり非常に大きいにも関わらず、若者がコーヒー栽培にあまり興味を持たなくなつたため、本組合はこれに対処するための方策も考え、実施していることもゼミ生は発見しました。実は、ここでも若手男性コーヒー農家のみならず、若手女性コーヒー農家の育成もしっかりと行っており、男女平等という観点からも、非常に好ましいことであることも見出すことができました。大きな発見でした。学生の提案は、本地域以外の若者を連れてくることでした（日本ではIターンと呼ばれることが多い）が、アフリカにはまだまだコミユナルランドという考え方が根強く、学生の提案が実施されることは、少なくとも今すぐは難しそうであることがわかりました。海外での政策提案は文化的背景も考慮に入れなくてはならないことがわかり、これも海外FWの大きな収穫の一つでした。

3年ゼミ生最後の発表は、エコツーリズム班です。2022年度から、うちのゼミとマバンバ湿地というラムサール条約にも指定されている有名なエコツーリズムサイトを管理・運営する現地の団体を繋ぐ人が辞めてしまい、コミュニケーションを取るのが非常に難しいのが現状となってしまいました。しかし、今年度、実際に現地を訪問できることから、コロナ禍後の現状をもう一度調査し、何が問題・課題か、把握するを行いました。その結果、政府から観光税の一部が現地に入るようになったため、環境保全や地域開発に資金を回すことができるようになり、かつ、自らも観光収入の一部を地域開発に回すようになったことなど、エコツーリズムの運営において進展があったことは大いに評価できる一方、廃棄物が湿地に蓄積し始めたり、組織内の幹部と若手職員のコミュニケーションが上手く取れていないなど、課題も多いことがわかりました。

エコツーリズム班は、調査のみならず、現地の様子を映像に取るのみならず、17期生のゼミ先輩が作成した地図のデジタル版を作成し、日本でマバンバ湿地を広報できる動画を作成しました。かつ、日本国内で何度か上映会も開催しました。

発表最後は、4年生による活動報告でした。2023年度夏、コロナ感染症の問題が落ち着いていたものの、航空運賃の高騰で、夏の海外FWを現地で実施できませんでした。全員ではないですが、5人の4年女子ゼミ生が、3年生と共に、渡航することになりました。

就活の関係で3年生と比べると十分に準備はできませんでしたが、昨年度、オンラインではありますが、ウガンダ海外FWには従事した経験がありましたので、短期間で準備ができたことはよかったですと思います。我々ゼミ生の、北部ウガンダで元子ども兵だった方々のコミュニティーへの帰還のサポートを行っているNPO認定法人テラ・ルネッサンスへの訪問の復活が叶い、その活動報告を行いました。現地での活動は、訓練センターの内容把握、現地の方々との文化交流（ダンス等）、小川代表へのインタビュー、と短時間ではありましたが、非常に多くの活動を行いました。

短時間ではありましたが、学生としては、2つの大きな発見・気づきがありました。一つ目は、本NPO法人の多大なる支援によって、元子ども兵の方々が経済的に独り立ちできるようになり、コミュニティーへの復帰も進んでいて、大変評価できますが、元子ども兵の方々が負ってしまった心の傷はまだまだ大きいものであり、どのような協力を継続するにしても、その点は必ず心に留めて置く必要があることを痛感したことでありました。もう一つは、本認定NPO法人代表の小川氏は、ウガンダが平和を取り戻しても、元ウガンダ子ども兵が近隣諸国にいる状況が続いている限り、いつまで経っても、東アフリカ全体の平和は構築できないという信念の下、現在、他国にいるすべての元兵士の方々に呼びかけて帰還を促している、との事であります。こちらはまだ完結していませんが、小川氏の信念や粘り強さには、ゼミ生一同、敬意を込めながら驚きを隠せませんでした。と同時に、日本のNPO法人がこのような素晴らしい活動を日本から遠い異国の地で行っていることに、我々一同、深い感銘を受けました。

2022年度は4名の国際開発、又は、ソーシャルビジネスや環境の専門家の方々にコメントをお願いしました。株式会社JIN代表取締役の大野康雄氏、同会社事業部長で開発コンサルタントの山下里愛氏、JICA アフリカ部アフリカ第二課の宮崎充正氏、そして、ゼミOB（10期生）で現在、株式会社ブリジストンのリサイクル事業部に所属する、崔崇弘氏、です。ゼミ生による活動報告後、この4名の専門家の方々から、コメントを頂きました。

大変好意的なコメントを頂いた一方、様々な改善点の提案もいただきました。NUFLIP班によるドライマングの実証実験にご協力を頂けるかもしれない、というような非常に心強いコメントを頂いた一方、まだまだ、我々の詰めが甘すぎるかも、と気付かせていただけるようなコメントも沢山出ました。どれも貴重なコメントでした。ありがとうございます。また、インパクト評価には定量的だけでなく、定性的なものも必要であることもご指摘いただきました。つまり、非財務的価値の重要性もご指摘いただきました。これもまた、非常に重要なコメントかと思われまます。

本分野の専門家に多数お集まりいただいて、ゼミ生が行ってきた活動成果を報告でき、かつ、それに対する忌憚のないコメントをいただけたこと、本当に良かったなと思います。今年も無事、成果報告会を終了できましたことを、報告申し上げます。

（文責：政策学部教員 岡本由美子）

## 2 2024年度ウガンダ海外FWの概要 (2024年8月29日～9月10日まで実施)

日付	曜日	地域	ウガンダにおける訪問機関	協力形態
8/30	金	首都カンパラ	JICAウガンダ事務所、ICT Hub	ODA
8/31	土	ワキソ(首都近郊)	マバンバ湿地エコツーリズム協会(MWETA)	CSR
9/1	月	ムバレ(東部ウガンダ)プフンボ有機小規模農家組合(BOFA)		Fairtrade
9/4~6	土	グル(北部ウガンダ)	北部ウガンダ生計向上支援プロジェクト(NUFLIP) 認定NPO法人テラルネッサンス・グル訓練所	ODA NPO
9/9~10	月	首都カンパラ	マケレレ大学開発学部、在ウガンダ日本大使館	国際交流